

4 履修案内
1－1 共通教養科目

(2014年度入学者から適用)

共通教養科目について

(2014年度入学者から適用)

本学の共通教養教育は、自立した良識ある市民としての判断力と実践的能力、国際的感性とコミュニケーション能力を有し、自ら成長することのできる人材を養成することを理念とし、その具現化を目指す以下の方針に基づいて教育課程を編成しています。

1. 学部・学科の枠組を越えた幅広い分野の共通科目を履修することにより、神奈川大学の学生として身に付けるべき、広い視野と総合的な知性を涵養するための科目を配置しています。
2. 現代社会の諸課題や学際的分野等、時代の要請に応える内容を包括した科目を配置しています。
3. 大学への導入教育と学部専攻科目を有機的に関連させるための科目を配置しています。
4. 大学生活に順応できるよう、全学必修科目としてFYS（ファースト・イヤー・セミナー）を配置しています。
5. グローバル社会において必要とされる外国語運用能力を身に付けるための科目を配置しています。
6. 世界の多様性に対する認識や異文化理解を促進するため、英語に加えて、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語を学べるよう科目を配置しています。
7. より高度な外国語運用能力を養成するため、各言語の基礎的な学力を身に付けている学生を対象に上級者向けの科目を配置しています。

共通教養科目は、1年次から4年次まで全年次を対象として開講されている科目です。下の図のようにいくつかの分野に分かれています。各分野には卒業までに修得しなければならない単位数（卒業要件単位数）が、また一部の学科では進級に必要な単位数が定められています。この単位数は、入学年度、学部・学科で異なりますので、必ず専攻科目のページに記載の「卒業要件」「進級要件」を確認してください。

共通教養科目											
共通基盤科目						共通テーマ科目					
FYS	外国語科目	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	学ぶ	グローバル経済を	社会と人間	科学技術と社会	生と死を考える	公共の新しいかたちをもとめて

共通教養科目 共通基盤科目について

「共通基盤科目」では幅広い分野にわたる教養や基礎的の学力、ジェネリック・スキル（一般的・汎用的な有用性をもつスキル）の育成を旨として、以下の科目を開講しています。

1 FYS（必修）

FYSは全学共通の初年次教育科目（必修）です。FYSとは、ファースト・イヤー・セミナー（First Year Seminar）の略で、新入学生（1年次生）は少人数のクラスに分かれ、「大学への入門」をセミナー（演習）形式で学びます。本学では、このFYSを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートしています。

2 外国語科目（必修）

今日のグローバル社会において、外国語運用能力がますます不可欠となっていることから、外国語能力の一層の充実を図っています。

3 人文の分野

過去から現在に至るまで、人は常に「人間」の存在に関心を抱き、その探究に力を注いできました。「人文の分野」では、哲学・宗教・心理・歴史・文学・芸術などの諸分野の学修を通して、人間の存在に関わる様々な事柄とその本質、あるいは人間が生み出した多様な文化とその価値を、これまでよりも広く深く学び、豊かな教養を身につけることを目的としています。学生の皆さんには、この分野の学修を通して人間社会がこれまで積み上げてきた多様な価値観と豊かな文化を理解し、国際社会で通用する幅広い視野と文化的感覚・知的能力を培っていただきたいと思ひます。

4 社会の分野

現代社会は多様化と複雑化の一途をたどり、便利さと同時に様々な問題をも生み出しています。例えば、国境を越えたヒト・モノ・カネの移動は、政治や経済のみならず教育や文化、さらには環境や食品などの分野にも大きな影響を与えています。このような現代社会をどのように把握したらよいのでしょうか。「社会の分野」における科目は、現代社会の多様な諸問題を、学際的かつ多面的に理解するために必要な、様々な学問分野の基礎的概念（理論と体系）を学ぶことを目的としています。学生の皆さんには、政治学、経済学、法学、社会学などそれぞれの学問分野の知識や思考方法を身につけ、多様な問題を解決するために必要な能力を修得していただきたいと思ひます。

5 自然の分野

人文、社会、自然など、どのような分野であれ、私たちが何かの対象について理解しようとするとき、ただそれらを漠然と眺めているだけでは理解することはできません。対象を理解するためには、それにふさわしい言葉、方法、道具からなる枠組みが必要になります。私たちを取り巻く自然の成り立ちや変化、また私たち人間と自然との関わりを理解しようとするときに、必要となる基本的な言葉、方法、道具を提供するのが「自然の分野」の科目群です。具体的には、自然を表現するために必要となる普遍的な言葉（概念、数式等）を提供するのが数学関連の科目であり、これらの言葉を用いて自然の成り立ちや変化を理解する方法と道具を提供するのが物理、化学、生物関連の科目です。さらに、これらの基本的な方法や道具が、実際の社会でどのように応用されているかを知るのが工学関連の科目です。また、自然の分野を学ぶ上で必要となる、情報処理の考え方と方法を提供するのが情報関連の科目です。

自然の分野における考え方・方法と、人文や社会の分野における考え方・方法との違いを知ることは、自分の理解の幅を広げることに繋がりますので、人文や社会の分野と自然の分野をバランスよく履修することを勧めます。

6 人間形成の分野

「人間形成の分野」は、「幅広い教養と人間形成」を育むための分野として、本学での学びを人間形成の観点から自覚的に捉えることを促す主旨で設置しています。具体的には、自己表現力や対人関係力のほか、自ら課題を見つけ、解決へと導いていく問題解決能力を養う「キャリア形成に関する科目」、健康に関する理論と運動実践を通して、社会生活につながる健康の自己管理のための動機付けとなる知識とその方法を学ぶ「健康科学に関する科目」、及び創立者である米田吉盛の教え、本学で学んだ人たちの足跡を知ることによって、学びの原点を発見し、本学での学修を人間形成の観点からより深めることを狙いとした「神奈川大学の歴史と建学の精神」を配置しています。

共通教養科目 共通テーマ科目について

「共通テーマ科目」は、現代の諸課題を扱うため、学際的性格あるいは既存の学問分野を越境する性格をもつ科目で、学生が世界と自己との関係性を自立的・主体的に捉えるという基本的視座の形成に資することを目標としています。

こうした主旨・目標にもとづいて、「現代社会と市民」をテーマとし、現代社会における市民の生存、生活、活動にかかわる諸課題を取り上げ、既存の学問分野に収まりきれない学際的な科目として次の5つのサブテーマに基づいた科目を開講しています。

- (1) グローバル経済を学ぶ
- (2) 社会と人間
- (3) 科学技術と社会
- (4) 生と死を考える
- (5) 公共の新しいかたちをもとめて

共通教養科目 履修要領・教育課程表 (2014年度入学者から適用)

- (1) 卒業するために必要な単位数(卒業要件単位数)は、各学科で異なるため、各学科専攻科目の『教育課程表』で確認してください。また、**1** 共通教養科目卒業要件単位も参照してください。
- (2) 同一授業科目は、重複して履修することはできません。
- (3) 『授業時間割表』上で、科目名が赤字の共通教養科目は、履修制限を行う授業科目です。履修の許可は抽選によりますので、『学修スタートガイド』を参照して手続きしてください。
- (4) 「人間形成の分野」の「スポーツ文化Ⅲ」は、学内で基礎的な理論と技術・体力を身につけたうえで、適地で学外実習(実習費用が必要)を行います。

種目	ゴルフ(前学期)	マリンスポーツ(前学期)	スキー・スノーボード(後学期)
定員	各時限 12名	30名	各時限 15名
演習日	8月上旬 3泊4日	夏季休業中の4日間 (宿泊なし)	2月下旬 4泊5日
場所	関東近郊ゴルフ場	湘南江の島	長野県志賀高原
費用	45,000円(予定)	20,000円(予定)	70,000円(予定)
備考	コースで3ラウンドする予定	※詳細については、以下HPを参照してください。 http://www.hs.kanagawa-u.ac.jp/sports/marine.html	スキーとスノーボードを実施する予定 SAJバッジテストあり

※実習の内容は、授業時に説明します。

※履修者が少ない場合には、実習内容の変更や開講を取り止める場合があります。

- (5) 履修方法の詳細については、本『履修要覧』とともに、『学修スタートガイド』『授業時間割表』^{シラバス}『Syllabus』を熟読してください。

1 共通教養科目卒業要件単位 (各学科専攻科目の教育課程表もかならず確認してください)

経済学科

共通教養科目 卒業要件単位

- 共通教養科目から次の内訳で合計32単位以上を修得すること。
 - (1) FYS 2単位。
 - (2) 第一外国語から英語を8単位。ただし、外国人留学生及び外国高等学校在学経験者(帰国生徒等)は申請により、英語に換えて、4～6単位を日本語とすることができる。なお、8単位に不足する単位は英語で補うものとする。
 - (3) 人文・社会・自然の各分野からそれぞれ4単位以上修得すること。
 - (4) 共通テーマ科目から2単位以上修得すること。
 - (5) 上記の(3)、(4)の計14単位の他に、人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて8単位以上修得すること。
 - (6) 「スポーツ文化Ⅰ～Ⅲ」は、2単位まで「卒業要件単位数」に算入することができる。
 - (7) 「キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」、「国内インターンシップ」、「海外インターンシップ」は「卒業要件単位数」に算入できない。

現代ビジネス学科

共通教養科目 卒業要件単位

- 共通教養科目から次の内訳で合計34単位以上を修得すること。
 - (1) FYS 2単位。
 - (2) 第一外国語から英語を8単位。
 - (3) 第二外国語として、第一外国語以外の外国語(同一語に限る)又は「インテンシブ・プログラム〔英語〕」の科目より4単位以上修得すること。ただし、外国人留学生は母国語を除く。
 - (4) 人文・社会・自然の各分野からそれぞれ4単位以上修得すること。
 - (5) 共通テーマ科目から2単位以上修得すること。
 - (6) 上記の(4)、(5)の計14単位の他に、人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて6単位以上修得すること。
 - (7) 「スポーツ文化Ⅰ～Ⅲ」は、2単位まで「卒業要件単位数」に算入することができる。
 - (8) 「キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」、「国内インターンシップ」、「海外インターンシップ」は「卒業要件単位数」に算入できない。

2 共通教養科目(外国語科目を除く)教育課程表

次ページを参照してください。

2019年度 共通教養科目(外国語科目を除く) 教育課程表 (2014年度入学者から適用)

		全 学 年 対 象							
		前 学 期				後 学 期			
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教養科目	F Y S	F Y S	2						
	人文の分野	●人文学入門	2	日本史Ⅰ	2	哲学Ⅱ	2	日本史Ⅱ	2
		哲学Ⅰ	2	文化交流論Ⅰ	2	倫理学Ⅱ	2	文化交流論Ⅱ	2
		倫理学Ⅰ	2	民俗学Ⅰ	2	宗教学Ⅱ	2	民俗学Ⅱ	2
		宗教学Ⅰ	2	考古学Ⅰ	2	心理学Ⅱ	2	考古学Ⅱ	2
心理学Ⅰ		2	芸術論Ⅰ(音楽)	2	文学Ⅱ	2	芸術論Ⅰ(音楽)	2	
文学Ⅰ		2	芸術論Ⅱ(美術)	2	日本語学Ⅱ	2	芸術論Ⅱ(美術)	2	
日本語学Ⅰ		2	手話入門	2	言語学Ⅱ	2	手話入門	2	
言語学Ⅰ		2	◇日本事情(歴史)	2	世界史Ⅱ	2			
世界史Ⅰ		2							
社会の分野		●社会科学入門	2	法学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2	法学Ⅱ	2
	社会学Ⅰ	2	日本国憲法	2	環境科学Ⅱ	2	政治学Ⅱ	2	
	環境科学Ⅰ	2	政治学Ⅰ	2	文化人類学Ⅱ	2	経済学Ⅱ	2	
	文化人類学Ⅰ	2	経済学Ⅰ	2	人文地理学Ⅱ	2	ジェンダー論Ⅱ	2	
	人文地理学Ⅰ	2	ジェンダー論Ⅰ	2	国際関係概論Ⅱ	2	◇日本事情(法律)	2	
	国際関係概論Ⅰ	2	◇◆日本事情(経済)	2	社会心理学Ⅱ	2	◇日本事情(政治)	2	
	社会心理学Ⅰ	2			現代社会思想論Ⅱ	2			
	現代社会思想論Ⅰ	2							
	自然の分野	●自然科学入門	2	科学技術史Ⅰ	2	数学Ⅱ	2	科学技術史Ⅱ	2
		数学Ⅰ	2	技術論Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2	技術論Ⅱ	2
統計学Ⅰ		2	情報化社会と人間Ⅰ	2	物理科学Ⅱ	2	情報化社会と人間Ⅱ	2	
物理科学Ⅰ		2	建築と都市Ⅰ	2	化学Ⅱ	2	建築と都市Ⅱ	2	
化学Ⅰ		2	情報処理概論	2	生物学Ⅱ	2	情報機器活用	2	
生物学Ⅰ		2	情報機器活用	2	工学Ⅱ	2	情報とコミュニケーション	2	
工学Ⅰ		2	プログラミング基礎	2	宇宙科学Ⅱ	2	プログラミング基礎	2	
宇宙科学Ⅰ		2			自然人類学Ⅱ	2	情報科学基礎	2	
自然人類学Ⅰ		2			自然科学論Ⅱ	2	◇日本事情(自然)	2	
自然科学論Ⅰ		2							
人間形成の分野	●人間形成入門	2	健康科学とスポーツⅠ	1	キャリア形成Ⅱ	1	健康科学とスポーツⅡ	1	
	キャリア形成Ⅰ	1	スポーツ文化Ⅰ	1	(1年次対象)		スポーツ文化Ⅱ	1	
	(1年次対象)		スポーツ文化Ⅲ	2	キャリア形成Ⅳ	1	スポーツ文化Ⅲ	2	
	キャリア形成Ⅲ	1			(2年次対象)				
	(2年次対象)				社会生活とスポーツⅠ	2			
	国内インターンシップ	2			社会生活とスポーツⅡ	2			
(2年次対象)				社会生活とスポーツⅢ	2				
海外インターンシップ	2								
(2年次対象)									
神奈川大学の歴史と建学の精神	2								
共通テーマ科目	グローバル経済を学ぶ	グローバル経済を学ぶⅠ	2			グローバル経済を学ぶⅠ	2		
		グローバル経済を学ぶⅡ	2			グローバル経済を学ぶⅡ	2		
		グローバル経済を学ぶⅢ	2			グローバル経済を学ぶⅢ	2		
	社会と人間	社会と人間Ⅰ	2			社会と人間Ⅰ	2		
		社会と人間Ⅱ	2			社会と人間Ⅱ	2		
		社会と人間Ⅲ	2			社会と人間Ⅲ	2		
	科学技術と社会	科学技術と社会Ⅰ	2			科学技術と社会Ⅱ	2		
		科学技術と社会Ⅲ	2			科学技術と社会Ⅳ	2		
		科学技術と社会Ⅴ	2			科学技術と社会Ⅵ	2		
	生と死を考える	生と死を考えるⅠ	2			生と死を考えるⅠ	2		
		生と死を考えるⅡ	2			生と死を考えるⅡ	2		
		生と死を考えるⅢ	2			生と死を考えるⅢ	2		
公共の新しいかたちをもとめて	公共の新しいかたちをもとめてⅠ	2			公共の新しいかたちをもとめてⅠ	2			
	公共の新しいかたちをもとめてⅡ	2			公共の新しいかたちをもとめてⅡ	2			
	公共の新しいかたちをもとめてⅢ	2			公共の新しいかたちをもとめてⅢ	2			

【備 考】

- 印は標準年次を1年次とし2年次まで履修することができる科目を示す
◆印は隔年開講科目を示す
★印は学期変更の科目を示す
◇印は外国人留学生(外国高等学校在学経験者〔帰国生徒等〕を含む。)を対象とした科目を示す
- 人間科学部の学生は、「健康科学とスポーツⅠ」「健康科学とスポーツⅡ」が必須である。
- 「スポーツ文化Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」については、2単位まで卒業要件単位として算入することができる。

F Y S とキャリア形成に関する科目

神奈川大学は一人ひとりの個性を大切にした教育を実践し、真の実学志向という伝統のもと、さまざまな改革を行ってきました。そして、激変する社会や時代の変化に対応するため、大学での学修の出発点で新入生に適切な助言を与え、学問に誘い学びの態勢を整える機会として「F Y S」を、大学と社会をつなぐ教育として、自己価値を向上させていくことを目的に「キャリア形成科目」を2006年度から導入しました。この共通教養科目として先駆的かつ特徴的な「F Y S」と人間形成の分野にある「キャリア形成に関する科目」について、以下に紹介します。

1 F Y S (First Year Seminar) について

F Y Sは全学共通の初年次教育科目(必修)です。F Y Sとは、ファースト・イヤー・セミナー (First Year Seminar) の略で、新入学生(1年次生)は少人数のクラスに分かれ、「大学への入門」をアクティブ・ラーニングの場としてセミナー(演習)形式で学びます。本学では、このF Y Sを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートします。

新入学生のみなさんは、この科目の履修を通して「高校と大学との違い、神奈川大学の歴史と今、そして今後の授業で必須となるスキル(読み・書き・調べる力・問題発見力・表現力・プレゼンテーション能力)等」を学び、主体的に学修に取り組む姿勢を修得してください。

具体的には、以下のような能力を身につけた学生の育成をめざします。

[大学で学ぶための視点]

- ① 大学で学ぶことの意味を理解し、自分を客観視することができる。
- ② 事象や既存の理論に対して「問題」を発見し、また疑問を提示することができる。
- ③ 自らの能力を自己評価でき、新たな達成目標を設定することができる。

[大学で学ぶための方法]

- ① 大学の組織と沿革を知り、また学修支援システムを自立的・継続的・多面的に利用できる。
- ② 教育課程を理解し、4年間の学修計画をたてることができる。
- ③ 図書館の利用により、独自に文献・資料等を検索又は収集できる。
- ④ 既存の文書を指示された要件に従って要約・再構成でき、また、完成度の高いレポートや小論文を所定の期限までに完成できる。
- ⑤ グループ学習に際しては、協調性をもって主体的に参加することができ、また意見を述べることができる。
- ⑥ プレゼンテーションに際しては、自ら資料を作成し、論点を整理し、所要時間内に口頭発表ができる。

授業回数は、前学期(半期)14回を、「神奈川大学への適応」(前半7回)と「基本的なスタディー・スキルの涵養」(後半7回)とし、「神奈川大学への適応」では、大学生活を送るうえで必要な一般常識や態度を、「基本的なスタディー・スキルの涵養」では、大学で学ぶための基礎的技法を実践的に学びます。

なお、事前・事後課題については毎回教員から指示があり、予習・復習合せて各回あたり約4時間の自己学習が必要です。

第I編 神奈川大学への適応(前半7回)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 主体的に授業に取り組む①
- 第3回 神奈川大学を知る
- 第4回 情報リテラシー
- 第5回 図書館利用ガイダンス
- 第6回 主体的に授業に取り組む②
- 第7回 主体的に授業に取り組む③

第II編 基本的なスタディー・スキルの涵養(後半7回)

以下には、7回を2課題として取り組む際の標準的な例を示した。

- 第8回 レポート作成やプレゼンテーション(1回目)① ~課題設定・資料収集~
- 第9回 レポート作成やプレゼンテーション(1回目)② ~具体的表現~

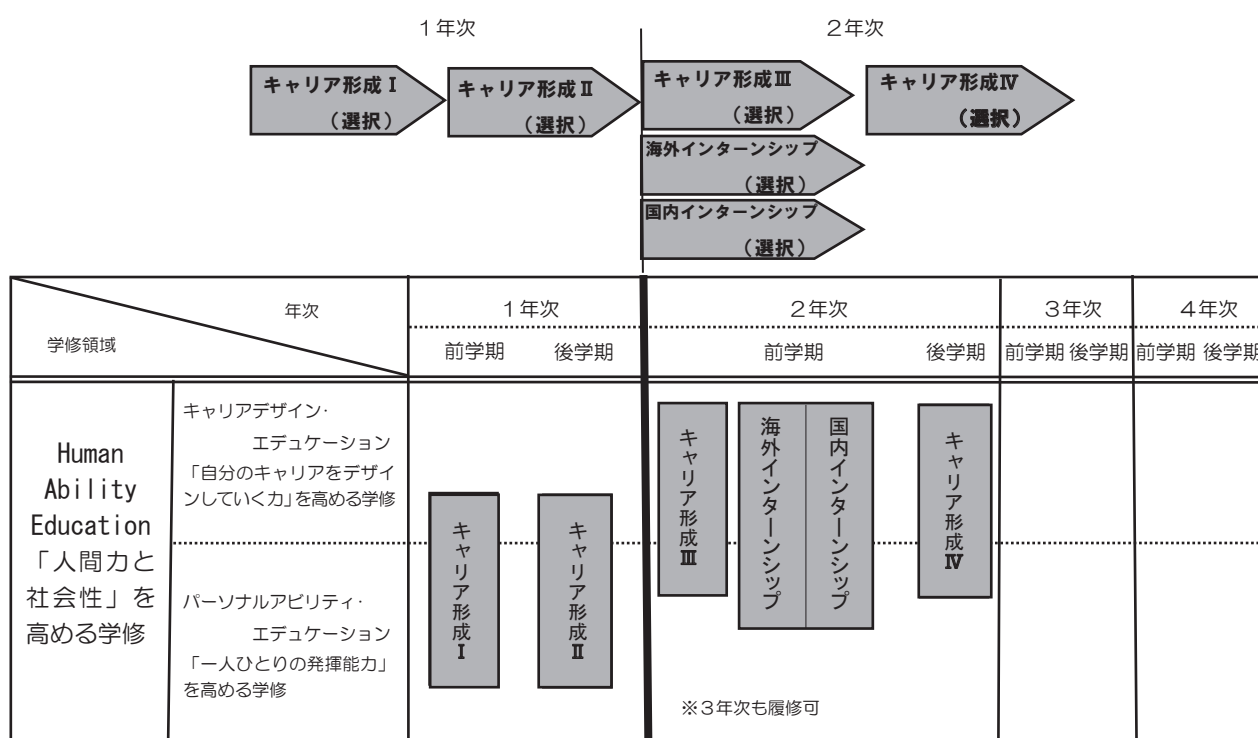
- 第10回 レポート作成やプレゼンテーション（1回目）③ ～相互での確認，問題改善とその発見～
- 第11回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）④ ～課題設定・資料収集～
- 第12回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）⑤ ～具体的表現～
- 第13回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）⑥ ～相互での確認，問題改善とその発見～
- 第14回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）⑦ ～まとめ～

このFYSは少人数による演習（セミナー）科目です。毎回の出席はもちろんのこと，課題の提出，グループでの学修や作業，そして討論やプレゼンテーションなど，学生の主体的かつ積極的な参加が求められます。

成績評価は，課題，レポート，プレゼンテーション等の内容70%，授業に参加する姿勢30%を目安とします。

2 キャリア形成に関する科目について（共通基盤科目「人間形成の分野」）

キャリア形成科目は，1年次から2年次までを対象として開講されている科目です。下の図のように，キャリア形成に必要なテーマを，年次毎にステップアップする形で配しています。



雇用環境は改善しているとはいえ，企業は従来の厳選採用の姿勢を崩していません。採用基準を厳しくし「少数精鋭的視点で，高い人材要件を求める」傾向は変わっていないのです。学生側としては，より豊かな人生を送る上で，そしてその第一歩を踏み出す就職活動のうえで，一層の“自己形成・キャリア形成”が大切になってきます。そのためにはまず，基盤となる“人間力”を十分に醸成し高めていく努力が必要になるでしょう。

社会では，求める社会人像として「生き方・仕事に対する目的意識が明確で自己成長に意欲的であること」が重要視されています。やりたいことに向かって行動し努力できるか，協調し切磋琢磨することができるか，体験から学ぶ力はあるか・・・等々のことが重要視されるわけですが，これはまさに「自分，将来，他者，仕事，成長といったことに真摯に向き合うことのできる力」を求めているのです。本来的なキャリア形成とは，よい職を得てキャリアを作るために必要な要素という狭義のことではなく，この「自分，将来，他者，仕事，成長といったことに主体的に向き合うことのできる力を作る」という，生きる力の根幹となる考え方にほかならないのです。そのような観点で大学生活を考えた時，4年間のキャンパス生活で「自分の進路を見出すこと」と「社会に価値を寄与する力を高めること」が，大きな目標になることは間違いありません。「キャリア形成科目」は，このような各人それぞれの進路の先にある社会生活で必要となる考え方や能力を習得するために設けられている科目で，本学の「成長支援第一主義」教育の一翼を担うものです。

その目的を，より具体的に示すと次のようなものになります。

1. 自分に期待し，自分の将来を展望できる力を養う

2. 大学生生活を、自分の力で、価値あるもの・充足したものにできる力を養う
3. 大学生として、社会の一員として必要な「5つの力=自己発見力、自己実現力、問題解決力、対人関係力、自己表現力」を養う
4. リアリティのある進路・職業観を形成する

このような目的を達成するために「キャリア形成科目」は、1年次から2年次後学期まで“各学年次にやるべきこと”を、ステップアップしながら履修していけるように、「キャリア形成Ⅰ」、「キャリア形成Ⅱ」、「キャリア形成Ⅲ」、「キャリア形成Ⅳ」、「国内インターンシップ」、「海外インターンシップ」という科目で構成しています。

なお、履修にあたっては、「キャリア形成Ⅰ」から順に履修することが望ましいのですが、どのキャリア科目からも履修は可能となっています（ただし、下位年次の学生が上位年次の科目を履修することはできません）。

（1）キャリア形成Ⅰ

1年次前学期に開講する「キャリア形成Ⅰ」は、以降に開講する「キャリア形成Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」の導入部として、大学生から社会人へ自己成長するための最も必要な基礎過程となっています。

「キャリア形成Ⅰ」の学修目的は、“自己発見力とポジティブ思考の形成”です。

ここで言う基礎過程とは、高校生から大学生への意識転換ということにとどまらず「これからの自分を作るために、本来の自分の良さや自分らしさを発見し直す」ことを意味しています。自分がどんな人間なのか分からない、やりたいことが分からない、自分との向き合い方が分からない……。あるいは、自分の良さや好きなど、武器にしたい長所などをさらに伸ばすにはどうしたらいいのか。いずれの視点であっても、この1年次の時に「気づく（見つける）」ことがとても大切なのです。

その意味で、この「自分への新たな気づき（自分探し）」こそが、キャリア形成の最も重要なファクターであり第一歩であると言えるのです。

さらに、「ポジティブ思考（肯定的・前向きな考え方）ができるようになる」ことが、重要な目的になります。「ポジティブであること」は、将来どのような進路を歩むかにかかわらず社会に出た瞬間から必要条件として求められ、さらには人生の道程をも左右する要件です。短所と決め付けていること、できないと思い込んでいること、あきらめていること、苦手意識、目的をもてない……。等といったネガティブな部分をポジティブに変えることこそが、大学生活やそれ以降の社会人生活全般を充実させ自己成長していく鍵になるのです。

また、ゲスト講師等も招き、キャリア意識を持って大学生活を送ることの重要性等を共に考えます。

「キャリア形成Ⅰ」は、大学生活のスタート時点で取り組んでほしい二つの重要事項に対する“考え方と取り組み方”を学びますので、できるだけ多くの学生の履修を望みます。

（2）キャリア形成Ⅱ

1年次後学期に開講する「キャリア形成Ⅱ」の学修目的は、“自己実現力の形成”です。

大学生活を半年以上過ごしたうえで「自分」をより深く見つけ、「自分の能力を引き出す考え方を習得し、“成りたい自分に成る力（自己実現力）”を高める」ことに取り組めます。

特に、人間としての根幹的な力となる「対人コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自己実現に至るプロセス構築力」について、具体的に、かつ実践的に学びます。

「キャリア形成Ⅱ」は、「キャリア形成Ⅰ」を通じて見つけた自分の良さを、将来の進路に結びつける力とするためのブリッジになる内容であり、同時に、大学生活の集大成である就職活動時に求められる「人間力」を向上させるものでもありますので、できるだけ「キャリア形成Ⅰ」から継続した履修を望みます。

（3）キャリア形成Ⅲ

2年次前学期に開講する「キャリア形成Ⅲ」の学修目的は、“職業観の形成”です。

自分の興味関心や職業観を「具体的な仕事に関係付けていく」ことに取り組めます。

どのような仕事があるのか？ 業種業界とはどういうものなのか？ 企業に入った後はどのようにキャリアを積んでいくものなのか？ また、大学で学ぶことと仕事とはどのように関連するのか、社会で活かされるのか？ 業界研究はどのようにしたらいいのか？ そのようなことを幅広く考察しながら、自分の関心に沿った仕事について詳しく学んでいきます。

「入社後3年間で、3割もの若者が辞めていく」という現象が社会問題化していますが、この主な原因は「ミスマッチ」であると言われています。ミスマッチとは「イメージしていた仕事、会社と現実とのギャップ」、つまり「こんなはずじゃなかった……」ということです。せっかく仕事に就いたにもかかわらず、2～3年（キャリアとなるには短すぎる期間）で辞めてしまうことは、本人にとっても企業にとっても不幸なことと言わざるを得ません。

このミスマッチ現象を払拭するには、下記の事項が不可欠です。

- ・ 憧れや知名度などのイメージだけに固執するのではなく、「幅広い選択肢と選拓眼」を持つこと

- ・できるだけ「やりたい仕事を具体的にする」こと
- ・「自分はなぜこの仕事をやりたいのか、をしっかりと意味づける」こと
- ・やりたい仕事（及び業界）のことを、できるだけ「リアリティをもって理解する」こと
- ・「比較検討、取捨選択できる手法を身につける」こと

このような必要事項を習得することが「キャリア形成Ⅲ」の目的ですので、そのために、数多くの業界を知り選択肢を持てるように、できるだけ多くの“業界出身者によるゲスト講話”を聴き考察できる授業形態で進めます。

キャリア形成Ⅰ・Ⅱの履修有無にかかわらず、できるだけ多くの学生の履修を望みます（ただし、1年次生は履修することができません）。

（４）キャリア形成Ⅳ

2年後学期に開講する「キャリア形成Ⅳ」の学修目的は、“問題解決力の形成・向上”です。特にこのプログラムでは、下記的能力について習得・向上を目指します。

- ・問題解決力
- ・論理的思考力、構想力

昨今のような変化の激しい社会状況においては、様々な問題事象が起こり得ます。企業活動においても、問題に直面する場面は多く、その際には全力で問題に向き合い解決・克服していかなければなりません。そのため、とりわけ問題解決力は重要視されており、新入社員の資質条件としても重要視されています。

また、論理的思考力も、職務遂行・問題解決・構想策定・成果創出の基礎資質として、業種・職種にかかわらず重要視されています。

「キャリア形成Ⅳ」では、この重要な能力要件の向上を図るために、必要な事柄（ディベートや企画立案等）をトレーニングしたうえで、企業とコラボレーションし、実践的なプロジェクト形式で“実際に企業で起きた問題を解決していく”ことを学修します。

“できる・使える力”となり、来るべき就職活動にも大いに役立つ内容ですので、できるだけ「キャリア形成Ⅲ」から継続した履修を望みます（ただし、1年次生は履修することができません）。

（５）国内インターンシップ

国内企業でのインターンシップに参加することを目的として開講する事前研修プログラムです。「国内インターンシップ」の学修目的は“企業体験で必要となる実践力・発揮能力の向上”です。

近年、インターンシップは、通常の授業では体験できない「企業活動や職場の実態」「仕事の現実」などをリアルに体験できる非常に有意義な機会として、学生・企業双方から注目されているものです。

ビジネスキャリアが豊富な講師による、マナー、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル、指示の受け方、電話対応・伝言・報告の仕方、態度行動のあり方、社会エチケット等々をトレーニングし、自分自身の実習目的を明確にしていきます。

なお、この授業は、国内インターンシップ（夏季休業中に行う）参加前の授業と、参加後の授業に分かれて構成されています。

プレゼンテーション力や問題解決力を向上させたい、又は、十分な時間をかけて事前準備にとりくみたい国内インターンシップ参加予定者は、この授業を履修してください（ただし、1年次生は履修することができません）。

（６）海外インターンシップ

海外企業でのインターンシップに参加することを目的として開講する事前研修プログラムです。「海外インターンシップ」の学修目的は“海外生活や業務体験で必要となる、また日本国内とは異なる「視点・考え方・態度行動・人間関係の持ち方」等の異文化コミュニケーションのあり方を理解し、実際の場で役立てられるようにする”ことです。

海外ビジネスキャリアが豊富な講師による、海外企業オフィスでのワークスタイルや慣習の違い、マナー・コミュニケーションスタイルの習得、受付・店舗等での接客接遇の仕方、電話対応・伝言・報告の仕方等々を、実際のオフィスシーンを想定しながらトレーニングし身に付けていきます。また、英文履歴書の書き方や、ホームステイ等の生活場面での留意点等も指導します。これらを通じて海外生活への不安を軽減し、対応力やプレゼンテーション力を養います。

なお、この授業は、海外インターンシップ（夏季休業中に行う）参加前の授業と、参加後の授業に分かれて構成されています。

海外インターンシップ参加予定者は、この授業を必ず履修してください（ただし、1年次生は履修することができません）。

社会生活を送るなかで、外国語を使って必要な事柄や気持ちを伝えたり、情報や知識をやりとりする機会が多くなりました。仕事のために否応なく外国語を使わなければならないことも確かに少なくありませんが、それよりも、外国語を身につけることによって、より心豊かに生きてゆけるのだと考えるほうが肯定的で良い姿勢でしょう。泳ぐのを覚えたりギターが弾けたりするようになれば、それだけ生きる喜びが増すのと同じことです。外国語を媒介にして、より広い範囲の、文化的背景が異なる人たちと、映画・スポーツ・音楽など、自分の関心のある事柄について情報や感じ方を伝え合うのは楽しいものです。

歴史的な事情から、現在、いちばん通用性の大きな外国語は英語です。ですから、少なくとも易しい英語だけは大学生の間に使えるようにしましょう。そして、英字新聞の一般記事の大意が理解できるくらいにはしておきましょう。すでに易しい英語が使える人は、表現力を豊かにするように心がけましょう。例えば、自分の専門領域について英語で意志疎通ができるようになるといいですね。

英語が使えるようにするために大事なことをいくつか書いておきます。

第一に、理解できるのと使えるのとは次元が違うということを認識してください。例えば、大学受験レベルの英語が理解できるからといって、中学校レベルの英語が使えるということではありません。理解できないものはもちろん使えませんが、理解できるというのは、使えることへの一歩なのです。

第二に、最も基礎的な水準 — 例えば、中学校レベルの英語 — の構文や語彙を徹底的に練習した人だけが英語が使えるようになります。このレベルの構文と語彙がすべての土台です。土台がしっかりしていなければ、その上に何を載せても崩れてしまいます。基礎レベルの英文が無意識に正しく言え、書けるようにしましょう。

第三に、英語を習得するのは、みなさん自身です。教員は習得の手助けはできますが、記憶するのはみなさんの脳であり、話すのはみなさんの口であり、書くのはみなさんの手です。これから掲げるシラバスには到達目標が書いてありますが、それに到達できるのは、教員の指示にしたがって十分に自学・自習する人たちだけです。

第四に、英語はできるだけ毎日練習するようにしましょう。スポーツや楽器と同じです。いつも練習していないと、せっかく身につけた力もたちまち落ちてしまいます。

第五に、英語を理解することと日本語に訳すこととを混同しないようにしましょう。翻訳作業をしているのでもない限り、日本語訳は英語が理解できているかどうかを測る一つの目安にすぎません。ある文脈のなかで与えられた英文の構造、及び使用されている語彙・表現からその英文によって伝えられるべき意味が正しく理解できれば、それでいいわけです。英語を英語として理解する — それを目標に英語学習を進めてもらいたいと思います。

神奈川大学の英語カリキュラムは、全体として、英語をコミュニケーション—話し言葉と書き言葉による意志・気持ち・情報・知識の相互伝達 — の道具にすることを目指して組み立てられています。

しかし、必修科目としての英語 — 「クラス英語」と呼んでいます — だけでは、英語の力を伸ばすためには不十分だと言わねばなりません。ですから、それらに加えて、「選択英語」をできるだけたくさん履修してください。「選択英語」は、特に力をつけたい分野（「読解」、「会話」、「作文」、「リスニング」など）を適切なレベルで学修できるようになっています。

また、コンピュータを使った「Eラーニング・システム」が導入され、学内・学外を問わず、オンラインで英語の自主学习ができます。大いに活用して力を伸ばしてください。

では、心豊かな学生生活が送れるように頑張ってください。努力を厭わなかった人たちには、その努力の分だけ — いえ、きっと、それ以上の達成・喜びが約束されることでしょう。

1 「クラス英語」

習熟度別のクラス編成になっています。

(1) 1年次生

クラスは、みなさんが4月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に決定されます。クラス決定後は、それぞれのクラスの「英語コミュニケーション (Listening) I」と「英語コミュニケーション (Speaking) I」を前学期に履修し、「英語コミュニケーション (Listening) II」と「英語コミュニケーション (Speaking) II」を後学期に履修します。

「英語コミュニケーション (Listening)」では、主に、リスニングに重きを置きながら、基礎的英語コミュニケーション能力の育成を目指した指導が行われます。

「英語コミュニケーション (Speaking)」は、ネイティブ教員による授業です。主に、実践的な英会話の指導が行われます。

(2) 2年次生

みなさんが1年次の後学期定期試験後に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に再編成されるクラスで、「英語コミュニケーション (Reading) I」と「英語コミュニケーション (Writing) I」を前学期に履修し、「英語コミュニケーション (Reading) II」と「英語コミュニケーション (Writing) II」を後学期に履修します。

「英語コミュニケーション (Reading)」では、主に、読解の指導に重きを置いた指導が行われます。

「英語コミュニケーション (Writing)」では、ネイティブ教員により、主に、実践的な英作文の指導が行われます。

なお、「クラス英語」においては、授業回数の4分の3以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので、きちんと出席してください。

※「クラス英語」は、TOEIC®のスコアアップを目的としたTOEIC®試験対策も行います。習熟度別のクラス編成のため、試験対策に係る到達目標は各クラスによって異なりますが、次に述べる「選択英語」の初級から上級の履修も視野に入れながら行います。

2 選択英語

「クラス英語」だけでは学習時間が足りません。その不足を補いながら、さらに実力を伸ばすための授業科目です。「選択英語」では、力を伸ばしたい分野を選べるようになっています。また、いくつかのレベルで授業を開講していますから、自分の力にふさわしいレベルを選んで効果を上げてください。

「選択英語」は、系統的・段階的に履修することができます。

- 英語で話したり、議論ができるようになりたい。
→「英語会話・初級～上級」「英語リスニング・中級～上級」を履修する。
- 英語でメールや論文のレジュメが書けるようになりたい。
→「英語作文・初級～上級」を履修する。
- TOEIC®テストのスコアを伸ばしたい。
→「TOEIC 演習・初級～上級」を履修する。
- TOEFL®テストのスコアを取得し、海外留学をしたい。
→「TOEFL 演習・初級」を履修し、その後「Academic Reading」, 「Academic Writing」を履修する。

「再入門」の到達目標は、簡単な日常会話ができ、簡単な文章の読み書きができるようになることです。「会話入門」の到達目標は、簡単な日常会話ができるようになることです。どちらも初歩から始めます。

「初級」レベルの到達目標は、「会話」では、日常的な事柄について会話ができるようになること、「作文」では、日常的な事柄に関する文章が書けるようになること、「リスニング」では、日常的な事柄に関する英語を聞いて理解できるようになることです。TOEIC®のスコアで250～400点の英語力のある人たちが対象です。

「中級」レベルの到達目標は、「会話」では、一般的な事柄について会話ができるようになること、「作文」では、一般的な事柄に関する文章が書けるようになること、「リスニング」では、一般的な事柄に関する英語を聞いて理解できるようになることです。すでにTOEIC®のスコア400～550点の英語力のある人たちが対象です。

「上級」レベルの到達目標は、「読解」と「リスニング」では、一般的な事柄及び専門的な事柄に関する英語を理解できるようになること、「会話」では、一般的な事柄について会話ができ、専門的な事柄についても一応の受け答えができるようになること、「作文」では、一般的な事柄について文章が書け、専門的な事柄についても要点が書けるようになることです。すでにTOEIC®のスコアで550点以上の英語力のある人たちが対象です。

なお、「TOEIC 演習」の到達目標スコアは、概ね「初級」は500点、「中級」は600点、「上級」は700点以上です。

開講科目は、以下の通りです。「～I」が前学期科目、「～II」が後学期科目で、IとIIを連続して履修するのが原則です。授業内容については、『シラバス』を参照してください。

「英語・再入門Ⅰ」「英語・再入門Ⅱ」
「英語読解・上級Ⅰ」「英語読解・上級Ⅱ」
「英語会話・入門Ⅰ」「英語会話・入門Ⅱ」
「英語会話・初級Ⅰ」「英語会話・初級Ⅱ」
「英語会話・中級Ⅰ」「英語会話・中級Ⅱ」
「英語会話・上級Ⅰ」「英語会話・上級Ⅱ」
「英語作文・初級Ⅰ」「英語作文・初級Ⅱ」
「英語作文・中級Ⅰ」「英語作文・中級Ⅱ」
「英語作文・上級Ⅰ」「英語作文・上級Ⅱ」
「英語リスニング・初級Ⅰ」「英語リスニング・初級Ⅱ」
「英語リスニング・中級Ⅰ」「英語リスニング・中級Ⅱ」
「英語リスニング・上級Ⅰ」「英語リスニング・上級Ⅱ」
「TOEIC 演習・初級Ⅰ」「TOEIC 演習・初級Ⅱ」
「TOEIC 演習・中級Ⅰ」「TOEIC 演習・中級Ⅱ」
「TOEIC 演習・上級Ⅰ」「TOEIC 演習・上級Ⅱ」

また、派遣交換留学や大学院留学を目指す人向けには、

「TOEFL 演習・初級Ⅰ」「TOEFL 演習・初級Ⅱ」
「Academic Reading A」「Academic Reading B」
「Academic Writing A」「Academic Writing B」

が開講されています。「TOEFL 演習・初級Ⅰ，Ⅱ」は初めて TOEFL[®]を受験する人向けに、4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を問う TOEFL iBT[®]に対応し、テスト対策、及び留学時に必要なスピーキング・リスニングの基礎的能力の育成を年間を通して演習形式で目指します。「Academic Reading A」「Academic Reading B」、
「Academic Writing A」「Academic Writing B」は、英語圏の大学レベルの授業についていけるよう、読解力、作文力にそれぞれ重点を置いた授業がおこなわれます。TOEIC[®]スコアで、590点以上の英語力のある人たちが対象です。ある程度、大学レベルの専門教育に慣れたのち、2年次生以降にとるとよいでしょう。

なお、選択英語の科目の多くは「履修制限科目」です。通常の履修登録に先だち応募し、抽選の結果で履修が決定します。抽選の結果、まだ空きがある科目に限って通常の履修登録時に登録が可能ですが、履修したい科目がある場合は「履修制限科目」への応募を行ってください。

また、クラス英語同様、授業回数数の4分の3以上の出席が単位認定の必須条件となっていますので、きちんと出席してください。

3 「クラス英語」の再履修

「クラス英語」の再履修者のための授業として、「英語 RE－Ⅰ」、「英語 RE－Ⅱ」があります。授業回数数の4分の3以上出席した人たちだけが評価の対象になります。

英語以外の外国語について

(スペイン語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・ロシア語) (2014年度入学者から適用)

英語以外の外国語を何のために学ぶか

誰もがパソコンを操って瞬時に世界の情報に接することができるグローバル化の時代にあつて、人が互いに理解し合うための言葉も多様化をせまられています。その昔ゲートは、外国語を知らぬ者は自国語について何も知らぬも同然だ、と言いました。外国語を学ぶということは、単に言葉ばかりでなく、その背後にあるその国・地域の人文地理をも学ぶことであり、ひいてはそれらを通して自国語の持つ社会、政治、文化的背景の理解がより深まるということです。世界のあらゆる地域と容易に交流できる今日、お互いに異文化を理解し、認め合うことが必要不可欠です。そのためにも既習の英語以外にいくつかの外国語を学んでいただきたいです。

自由な時間が十分にとれる大学の4年間を活用し、諸外国語を学んで海外に出かけてください。百聞は一見にしかず、と言います。まず、実地にて見聞を広めることが大事なのです。

履修の際に注意すること

本学では意欲的に外国語を学ぶみなさんのために、英語以外の外国語として、スペイン語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語が開講されています。セメスター制(学期制)で、「Ⅰ」「Ⅱ」の順に履修してください。初習外国語ですから、「Ⅰ」がしっかり学修できていなければ、「Ⅱ」を履修することは事実上困難です。「中級」科目については、①「初級AⅠ」「初級AⅡ」を履修して2単位を修得している、②「初級BⅠ」「初級BⅡ」を履修して2単位を修得している、のどちらかの条件を満たさないと履修登録できません。次項にそれぞれの外国語の簡単な紹介と、前学期「Ⅰ」と後学期「Ⅱ」の授業内容及び授業の進め方などが示されています。よく読んだうえで履修してください。また、学部によって履修の方法や必要な単位数が異なりますので、注意してください。

なお、スペイン語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語の各検定試験に合格すると外国語科目等の単位として認定される制度があります。詳しくは、『履修要覧—横浜キャンパス共通—』の「学則及び諸規程」にある「各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程」を参照してください。不明な点は、教務課に問い合わせてください。

1 「スペイン語」について

スペイン語は英語とともに世界で最も重要な国際語の一つで、国連の公用語でもあります。スペインや中南米諸国など20か国以上で話されるほか、アメリカ合衆国でもスペイン語を話す人々が大変増えています。これらの国々の政治・経済、社会や文化を理解するためには、スペイン語の学習が欠かせません。

また、スペイン語圏の国々を知ることで、新しい価値観を学ぶことができます。英語ではなくスペイン語を通じて世界を見ることで、グローバル化が進む今日の社会を異なる視点から眺めることができるはずです。私たちが暮らす日本社会の見え方も変わってくるかもしれません。

新しい言語を学ぶのは決して簡単なことではありませんが、英語のほかにスペイン語を身につければ、将来の可能性も大きく広がります。

●スペイン語初級

スペイン語によるコミュニケーションのための基礎的な文法や文型を学びます。

スペイン語の動詞の形には大きく分けて直説法と接続法がありますが、初級では直説法の現在形から過去形まで、再帰動詞の活用と用法も含めて学びます。

初級Aは文法中心のクラス、初級Bは会話・表現、つまり「話す」「聞く」が中心のクラスです。したがって、初級ではAとBの両方を履修しなければなりません。基礎を固めながら実践力をつけるためには、AとBの同時履修を強く推奨します。他の授業との兼ね合いで、やむを得ず片方ずつしか履修できない場合は、原則として初級Aを先に履修してください。

●スペイン語中級

中級は、A及びBが会話・表現中心のクラス、C及びDが文法・講読中心のクラスです。CとDのクラスでは、直説法の完了形と未来形及び接続法まで、スペイン語の時制や用法をひととおり学びます。AとBのクラスでは、それ

らを用いて会話やリスニングの練習などを行います。

語学科目 8 単位が必修の学生は、A 又は B（会話・表現）のうち一つと、C 又は D（文法・講読）のうち一つの、合計二科目を履修してください。原則 A と C、A と D、B と C、B と D のいずれかの組み合わせで履修しなければなりません。語学科目 6 単位が必修の学生は、A・B・C・D のうち一つを履修してください。

●スペイン語上級

スペイン語上級は自由選択の科目です。中級までで学んだスペイン語のスキルをさらに上げたい学生のためのクラスです。

2 「中国語」について

みなさんが外国語の中から中国語を選択して学ぶ場合、漢字で書いてあるから何となく意味が分かるだろうと考える人が少なくありません。しかし、残念ながらこれは誤解に基づくものです。

言葉というものは本来音によって伝えられるものです。中国語と日本語も文字を抜きにして比べてみると、音の出し方も文法も全く異なるものだということが分かります。つまり、日本人あるいは日本語を母語とするものにとっては、中国語とはしっかりと勉強しなければ話すことも読むこともできない、あくまでも外国語なのです。

漢字愛好者にとってもう一つのショックは、発音練習にはローマ字を使わなければならないことです。しかもこのローマ字表記は欧米や日本のそれと異なった音で読まねばなりません。さらに、中国語は同じ発音でも音の高さ低さで意味が変わってしまうため、一つ一つの文字の音の高さ低さも覚えなくてはなりません。多くの学生諸君がこの壁を突破できず、結局中国語を話すことができないまま終わってしまうのは本当に残念です。漢字という文字の知識は、言葉の基本である発音のハードルを越えたときに初めて役に立つということを忘れず勉強してください。

経済成長を続ける中国と日本の関係は今後もますます強まり、国内外で中国語を話す人々とコミュニケーションを取る機会が増えます。みなさんが日本社会のみならず、国外においても活躍できる可能性を広げるために、豊富な授業内容を活かし、中国語をしっかりと修得することを願っています。

●中国語初級

授業の組み合わせ

初級には A と B 二つのクラスがあります。A の方は中国語を体系的に学ぶための文法の説明を中心にした授業で、B の方はコミュニケーション能力の向上を目指した中国語が母語の教員による口頭練習を中心にした授業です。1 週間で 2 科目学習するよう、A と B を組み合わせて履修してください。A、B それぞれ複数のクラスがあり、いずれも前後期を通して、同一教員が担当するので、通年で履修することが望ましいです。

次の 2 学科については開講クラス及び開講曜日・時限を指定して授業を行うので、必ずそれに従って履修してください。クラスの指定は 4 月初旬に各学科の掲示板に掲示します。

- ・経済学部現代ビジネス学科
- ・外国語学部英語英文学科

履修上の注意

クラスの人数が多い場合、抽選などで他のクラスへ移ってもらうことがありますので、履修を希望する時間帯の授業には、必ず一回目から出席して下さい。

●中国語中級

初級を修得した方はぜひ中級を受講し、着実に基礎を固め、実際のコミュニケーションの場で応用できる実力を身に付けましょう。中級のうち、A と C は内容のある中国語を理解できるようになるための講読が中心で、教材は現代中国を知ることのできる評論文や時事文、中国の人々の心に触れる文学作品やエッセイなどが使用されます。これに対し、B と D は中国語が母語の教員による発音の練習や会話が中心で、教材も会話体のものが使われます。自分の勉強したい内容に即して、自由に選んで下さい。但し、A～D それぞれからは一つずつしか選べません。

●中国語上級

中級を修得した方は上級を受講することによって、中国語の能力をさらに伸ばすことができます。上級は基本的に中国語が母語の教員による授業で、全てを中国語で行うものもあります。徹底した少人数教育で行われますので、この授業を一年間受講すればあなたの中国語力は飛躍的に伸びるでしょう。

韓国語は、日本にとって一番近い国の言葉です。昔から日本と韓国はきわめて親密な、しかしときにはかなり緊張した関係におかれたこともあります。いずれにせよ、隣国の言葉を学ぶということは、これからの時代を考えると非常に重要なことです。

特に最近、日本にとって韓国や朝鮮民主主義人民共和国はますます重要な存在になりつつあります。政治や経済だけでなく、文化や芸術の面においてもそうであります。授業では韓国語の文法と会話だけでなく韓国の歴史、文化などについてもできるだけ触れるようにしています。

●韓国語初級

韓国語がまったくはじめての人を対象に、韓国語の文字と発音から授業を進めます。韓国語の文構造は日本語と非常に似ているので、日本語を母語とする学習者にとっては、習得しやすい外国語の一つです。

授業では語学の他に、韓国の歴史や文化をはじめ、最近話題になっている映画や若者の関心事なども取り上げます。1年間の授業で韓国語の読み書きと基本文型が身につきます。

A I・A IIでは韓国語の基本的な文法を中心に授業を行い、B I・B IIでは韓国ですぐ使える実用的な会話の練習を中心にコミュニケーション能力の養成をはかりますので、A、Bをワンセットで履修してください。

●韓国語中級

韓国語初級を履修した人を対象とします。韓国語の能力を一層高めるため、文法と会話を中心とした4種類のクラスが設けられています。テキストを中心に日常でよく使う語彙、表現を多く覚えます。会話能力の向上のため、実際の場面を想定した練習も行います。韓国を知る上で必要な歴史的出来事、人物、最近の日韓関係などにも目を向けます。さらに、韓国語能力検定試験、ハングル能力検定試験などのサポートもしています。合格し申請すると、2単位が取得できます。同一年度に複数の授業を履修することができます。

●韓国語上級

韓国語の中級程度の学習を終えた人を対象とします。韓国語と日本語の類似点と相違点にも注目しながら、より体系的に学習します。韓国の人々のものの見方と関係のある表現、ことわざなども取り上げ、その特徴について話し合います。ドラマや映画を通して韓国の冠婚葬祭、風習などにも触れ、韓国に対する理解を深めます。韓国語能力検定試験、ハングル能力検定試験などのサポートもしています。合格し申請すると、4単位が修得できます。同一年度に複数の授業を履修することができます。

ドイツ語はたんにドイツ一国だけの言葉ではなくて、ドイツの他にも、オーストリア、スイス等でも使用されており、さらに、いわゆる中欧、東欧の近隣の国々でもよく通用している言葉です。その使用人口はほぼ1億人と言われていています。従来ドイツは、どちらかと言えば哲学、音楽、文学、自然科学などの国であるというイメージが強かったのですが、工業の発達した経済先進国であり、EU（ヨーロッパ連合）の経済を支え、アメリカや日本とともに経済大国でもあります。そしてその経済力と地理的位置から、ヨーロッパの諸国に与える影響も大きく、名実ともにEUのリーダー的存在でもあります。

ドイツ及びオーストリア、スイス等の「ドイツ語文化圏」の政治、経済、社会、歴史、文化等を理解しようとするためには、ドイツ語の習得がどうしても必要です。逆に言うと、ドイツ語の習得によって、みなさんが専門として学修している、大学での専攻分野（法学、経済学、工学他）をさらに深く探究できるチャンスが広がるのです。ドイツ語文化圏においてこれまで研究され蓄積された膨大な知識のデータベースへのアクセスは、ドイツ語を第二外国語として選択されたみなさんにしか与えられません。大学生として自分自身の専門分野にしっかりと向き合い、向上させたい気持ちのある人には強くドイツ語をおすすめします。

また、ドイツ語の学習をより発展させていくために、長期・短期留学は大きな意味を持ちます。ヨーロッパで最も理想的な留学先はドイツです。その理由は、もちろんドイツの大学の質の高さにあるわけですが、その他に、他国の留学費用と比較すると、学費が破格に安いということはあまり知られていないことかもしれません。本学ではドイツへの長期・短期の留学制度が充実しています。また夏季休暇や春季休暇を使って、本学が指定しているドイツの大学主催の語学講座に参加することで、単位認定される制度もありますので、ぜひ活用してください。

●ドイツ語初級

週2回の授業のうち、1回はA I, A II (文法中心), もう1回はB I, B II (コミュニケーション中心)を行います。A I, A IIでは、入門から始まり、一応平易なものが理解できるための最低限度の文法知識を学び、B I, B IIでは、コミュニケーションを成立させるためのドイツ語の表現をさまざま学びます。履修希望者は、自分の出席可能なクラスを選んで受講して下さい。なお、相談及び質問のある者は、専任教員に相談すること。(17号館313号室 小松原)

※ドイツ語初級A I, A II (文法中心) 全クラスで統一教科書を使用します。

※ドイツ語初級B I, B II (コミュニケーション中心) 全クラスで統一教科書を使用します。

●ドイツ語中級

初級で学んだドイツ語の知識を土台としてさらにドイツ語能力を発展させます。そのために各担当者によってさまざまな教材を用いた多様な内容のクラスが設けられています。ドイツ語の力を磨きながら、ドイツの文化、歴史、社会等に親しみ、ドイツを身近なものとして捉えられるようにします。

なお、A I, A II, B I, B IIはドイツ人講師によってコミュニケーション・ドイツ語を主体とした授業が行われますので、必要な学生はぜひ受講して下さい。

●ドイツ語上級

ドイツ語能力にいつそう磨きをかけながら、ドイツの文化や歴史、政治・経済、社会事情等について、深く切り込んだ授業が行われます。このクラスの修了者が近年続けてドイツに留学しています。ドイツ語に興味を持つ人、ドイツについて知りたい人、将来ドイツで学びたい人等の積極的な参加を期待します。

●ドイツ語検定及びゲーテ・インスティテュート・ドイツ語検定について

本学ではドイツ語技能検定(財団法人ドイツ語学文学振興会主催)4級以上の合格者に対して、外国語科目の卒業要件単位として、2単位以上を認定しています。また、グローバルな資格試験であるゲーテ・インスティテュート・ドイツ語検定は東京ドイツ文化センター(東京青山)で開催されており、初級・中級を修了したみなさんで、特にドイツ語圏への留学を希望している人は、こちらの試験にもぜひトライしてみてください。

5 「フランス語」について

フランス語は私たちの生活の中にけっこう入りこんでいる言語です。料理やお菓子の名前(ガトー・オ・ショコラ=チョコ・ケーキ)や、ファッション、芸術を語る言葉もフランス語由来のものが少なくありません。あなたが今借りているアパートの名前にも、「メゾン(家)」や「ファミリー(家族。本当はファミリーユと発音します)」といったフランス語が使われているかもしれませんね。

フランス語は発音の美しい言語というイメージもあるでしょう。ただそのぶん発音をマスターするのが難しそう…と心配してしまうかもしれません。確かに覚えなければいけないルールは多いですが、一回マスターしてしまえばむしろ英語よりも簡単だと思います。フランス語は英語に比べて例外がとても少ない言語で、理屈好きな人(?)にはぴったりの言語と言えるでしょう。

また英語とほとんど同じ単語もよく出てきます。それはフランス語が英語の影響を受けたからではなく、逆に英語がフランス語の支配を受けたからなのです。例えば英語のbeefはフランス語のboeuf(ブッフ)という言葉から生まれた言葉ですが、beefが「牛肉」だけを表すのに、boeufは「牛肉」も、まだ生きている(?)「牛」も表すのです。どうしてこのような意味のズレが生じたのでしょうか? まずは自分で考えてみましょう。

そしてフランス語には姉妹とも呼べる存在がいて、スペイン語やイタリア語がその代表です(なぜ兄弟ではなく姉妹なのでしょう? それはフランス語で「言語langue」が女性名詞だからです)。ラテン語という共通の母親をもつこれらの言語は互いに似ているところも多く、スペイン人とフランス人がお互いの言語で何とか意志疎通している姿を見かけることも少なくありません。

また言葉だけでなくフランスやフランス人に対して憧れを持つ人も少なくないでしょう。パリジャン・パリジェンヌ、流行の発信地、パティシエの修行の場、エッフェル塔やモン・サン=ミシェルといった観光地…。確かにフランスは今も昔も世界中の人をひきつけてやまない魅力あふれる国であると思います。

しかしこのような目立つ部分だけでなく、フランスに生きる普通人々のライフスタイルや価値観にも注目する必要があります。現在のフランスは移民と共存する社会であり、葛藤を抱えつつ、とことんまで議論することで理想の

社会を模索している段階と言えます。このような「リアルな」フランスを見ていくことは、大げさではなく、これからの日本を考える上でも重要なのではないのでしょうか。

さらに言えば、フランス語を話すのはフランスだけではなく、ベルギーやスイスといったヨーロッパの地域だけではなく、カナダのケベック地方や、アフリカの多くの国がフランス語を使用しています（アフリカに人道支援に行く人の必須の言語とも言われています）。そこに植民地という過去を見るのと同時に、英語やスペイン語と同様に国際語となっているフランス語の多様な姿も確認できるでしょう。アフリカに興味があるからフランス語を勉強するという選択もよく見られるものです。

フランス語を通して、流行やブランドだけではなく、フランス人の独創的な価値観に触れること、そしてアメリカとはかなり異なるヨーロッパの考え方や、アフリカへの視点を獲得すること——、世界に対するもう一つの見方を、ぜひフランス語を勉強することで発見してみてください。

フランス語の授業は、前学期と後学期に分かれています。内容的にはつながりがあります。特に初級の段階では、前学期の内容が理解できていないと後学期の授業についていくのは難しいです。したがって、特に初級では、前学期の単位をとってから後学期の授業を履修するようにしてください。

2年次で中級の授業を履修しようとする場合には、初級AⅠ・AⅡを合わせて2単位とる、あるいは、初級BⅠ・BⅡを合わせて2単位とることが必要です。また、フランス語初級は、AとBで一組になっているので、AとBを合わせて受講することが望まれます。なお、フランス語初級は外国語科目であり、国際文化交流学科の選択必修科目である入門フランス語とは異なるので、間違えないようにしてください。

●フランス語初級／Elementary French

初級フランス語のうち、AⅠ（前学期）とAⅡ（後学期）を「コミュニケーション（表現）」クラス、BⅠ（前学期）とBⅡ（後学期）を「コミュニケーション（理解）」クラスとします。

AⅠ、AⅡの表現クラスでは、学習者が実際にフランス語を話したり聞いたりする練習をします。日常会話の基本的な表現ができるようになることをめざします。

BⅠ、BⅡの理解クラスでは、コミュニケーションのために必要な文法知識を学び、フランス語で書かれた簡単な文を読み、聞き取り、理解することができるようになることをめざします。

なお、実際に受講するにあたっては、週2回受講すること（前学期にはAⅠとBⅠをそれぞれ1つずつ、後学期にはAⅡとBⅡをそれぞれ1つずつ受講すること）が望まれます。

●フランス語中級／Intermediate French

中級には、A、B、C、Dがあります。2つ履修するためには、AとB、BとC、CとD、などのように、アルファベットの異なる科目を選択しなければなりません。

中級A：文法・講読を学びながら、フランス文化を理解する。

中級B：文法事項の復習を中心に、運用力を高めていく。

中級C：会話を中心とした授業を行う。

中級D：文法・講読を学びながら、フランスの文化や社会についての知識を深める。

●フランス語上級／Advanced French

初級、中級よりさらに進んだフランス語の運用能力を養うことをめざします。文学、思想、歴史、社会などに関するテキストを読んだり、複雑なことを伝える会話のトレーニングをしたり、フランス文化・社会をより高度なレベルにおいて理解することをめざします。フランス語の検定試験に合格したい人、留学を準備している人は必ず受講するようにしてください。

上級A：フランス文化や社会についての知識を深めながら、フランス語を読んだり、書いたりする力を養う。

上級B：フランス語検定試験準2～3級程度を受験するための学習を行う。

上級C：会話を中心とした授業を行う。

●フランス語技能検定試験について

本学では、フランス語技能検定試験（フランス語教育振興協会主催）の1級、準1級、2級、準2級、3級、4級及びDelf, DalFのa1以上の合格者に対して、外国語科目の卒業要件単位として、2単位以上を認定しています。フランス語を勉強する上での目標として、検定試験による客観的評価を得ておくことも一つの選択肢でしょう。

※ フランス語の履修について不明な点がある場合には、17-311室（熊谷研究室）まで相談しに来てください。

ヨーロッパの言語には三つの大きな言語群（ゲルマン・ロマンス・スラヴ）があり、ロシア語はそのうちのスラヴ系の言語の一つです。また、国連の公用語になっています。ロシアばかりでなく、東中欧から中央アジアなどにまたがる国々やその他の約3億の人々がロシア語を理解できると言われています。

日本との関係では、北方領土問題など政治上の問題があることから、あまり積極的な交流はないように見えるかもしれませんが、現在、ロシアの経済状況は完全に回復し、日本との経済交流は急速に進展しつつあります。また、文化や芸術などの面では、明治時代から強いつながりがありました。今でも、ピアノやバイオリンを始めとする音楽やバレエ、演劇など、ロシアの芸術は世界有数の水準にあります。また、日本文化に対する関心も高く、活発な交流が行われています。それ以外でも、ロシアは宇宙開発などの分野で、世界最高レベルの科学技術を持っています。

ロシアは中国や韓国と並んで日本の隣に位置しており、今後の経済発展も見込まれることから、東アジアの重要なパートナーになりつつあります。すでに、サハリンや東シベリアでの石油開発が日本と共同で進行しており、エネルギーや資源などの面では日本にとって重要な存在になってきています。

今の日本で外国語の学習と言えば、誰しも英語を一番に考えますが、同じヨーロッパ系の言語でも、少し系統の違う言葉を勉強してみると、普段の生活では気付くことのない新しい物の見方に出会うことができます。個性や多様性が時代のキーワードになりつつある現在ですから、普通の人になかなか勉強できない言葉を学習してみるのも良い経験となるでしょう。

ロシア語の授業では、初級で独特のアルファベットの学習など基礎的な学習から入り、中級で基本的な文法内容などの基礎力を充実させ、上級で読解や作文などの運用力・応用力を養うことを目標とします。英語のアルファベットとは異なるキリル文字を使っているため、初級から上級までのステップを確実に踏んでいくことで、確かな語学力を身につけて下さい。

神奈川大学では、ロシアのアストラハン国立大学・ブリヤート国立大学に交換留学生として派遣されるチャンスもあります。ぜひチャレンジして下さい。

履修についての質問や相談には各教員が随時応じます。

●ロシア語初級

初級では、はじめに文字と発音を学びます。その後、簡単な表現を中心として、文法の基礎を習得していきます。必要に応じて、音声教材やビデオ教材などを活用するほか、ロシアやロシア語が使われている地域についての解説も行い、生きたロシア語に親しめるようにしていきます。

授業はA・Bの週2回で、履修者各自がA・Bを1コマずつ選択して下さい。

●ロシア語中級

初級での基本的な知識を基にして、語学力の充実を目指します。実用的な表現を中心に学習しながら、辞書を使って文章の読解ができるように指導していきます。中級になると様々な文法事項が出てくるので、勉強は大変そうに見えます。しかし、ロシア語は体系的にできているので、着実にステップを踏むことで誰でも習得することができます。

授業は、教員ごとにA・Bの区別があります（2019年度はC・Dは休講です）。

●ロシア語上級

初級・中級で学んだロシア語の基礎力をもとに、読解や会話など語学力を実際に運用する力の向上をはかっていきます。その際には、履修者の関心に応じて、実践的な指導を行います。この段階では、ロシアに関連するゼミナールや講義などをあわせて受講することで、より専門的な知識を深めていくこともできるので、積極的に活用して下さい。

また、ロシアへの留学や卒業後の進路などの参考となる情報については、担当教員に積極的に尋ねて下さい。本学からも、貿易や旅行業などをはじめとして様々な業界で活躍している卒業生が出ているので、いろいろな相談に応じることができると思います。

日本語について (対象：外国人留学生，外国高等学校在学経験者〔帰国生徒等〕)

(2014年度入学者から適用)

この講座の目的は、日本語を母語としない学生が、適確なことばを使って意思伝達を行う能力を身につけることです。とくに、大学生活を送る上で必要になる日本語の技術を学ぶことに重点を置いています。

本学に入学してきたみなさんは、自分の希望や考えをある程度伝えられる力をすでに備えています。次にみなさんがすべきことは、そのレベルで満足するのではなく、日本語で表現されていることをより正確に理解する、自分の考えていることを正確に理解してもらうための勉強です。なんとなく伝わればOK，というレベルは卒業です。

留学生や外国高等学校に在学した経験を持つ皆さんの発想やアイデアは、教員にとって時に斬新であり、刺激的で、強く訴えかけてくるものがあります。そのようなみなさんの考えを、授業の中で知ることが教員にとって幸せなことです。しかしながら、「伝達の過程で」誤解が生まれたり、表現したいことがなかなか伝わらなかつたりすることがあり、常々、これはもったいないことだと感じています。正確に伝わらない原因はさまざまです。単純な文法の間違いであったり、漢字の読み間違いであったり、発音の問題であることもあります。また、言語面での問題ではなく、理論立てそのものに矛盾がある場合もあります。

この講座では、言語面での応援をします。多くの学生が嫌う文法も避けては通れません。地道に書く，という作業もともないますから、辛いと思う人もいるかもしれません。しかし、みなさんの表現したいことを理解するためには必要な行程でありますのであらかじめ、修業だと思って参加してください。外国人留学生，外国高等学校在学経験者のみなさんからこそつ強みを十分に生かし、本学において、日本語母語話者の大学生に刺激を与える存在になってほしいと願います。

日本語科目は、初中級から上級までの習熟度別クラスになっています。さらに各レベルにおいて、「文を書く」、「文章を理解する」、「自発的に話す」などの技術に特化したクラス編成になっています。履修可能な科目は、入学時のオリエンテーションで行われるプレイズメントテストの結果をもとに決定されます。許可された科目群の中から各科目の内容を理解した上で履修登録をし、授業に参加してください。各科目の内容は、シラバスで確認することができます。

なお、新入留学生の日本語科目の履修登録の詳細については、オリエンテーション時に指示がありますので、必ず確認してください。2年次以上の学生は、ウェブステーションで履修登録ができますが、「日本語A I・II」「日本語B I・II」を履修する場合は、習熟度の再確認と科目担当者の許可が必要になります。

●日本語A I・II

「読む、聞く、書く、話す」の基本的な4技能の向上を目指す科目です。やや基礎的な内容を中心としますので、基本的な文法の確認や発音の矯正なども含まれます。大学の授業についていく自信が十分でない学生は、この科目から履修することをすすめます。

●日本語B I・II

「A」より「書く」ことを集中して行うクラスです。とくに、大学の講義を受ける上で必要になるレポート、答案、論文の書き方などを学びます。「書く」だけではなく、何かを書くためには、何かを読む作業も必要になりますので、「読む」練習も加わります。

●日本語C I・II

「話す」「聞く」練習を中心としますが、とくに、大学生活を送る上で必要になる表現の技術を中心に学びます。たとえば、ゼミでの発表や、日常生活における口頭伝達などの練習です。

●日本語D I・II

「B」「C」よりさらに高度なレベルで要求される授業で、「書く」ことを中心とします。日本事情に関する内容も含まれます。

●日本語E I・II

「D」と同じく、「B」「C」よりさらに高度なレベルで要求される「表現」を行うための授業です。「読む・書く・聞く・話す」4技能のすべての応用練習で、高度な語句の履修なども含まれます。

●日本語 F I・II

「A」「B」「C」よりさらに高度なレベルの日本語力を要求される「聞く」力をつけるためのクラスです。理解を深め、内容を論理的に整理し、伝達するために必要な表現の学習をします。読解や口頭発表もあわせて行います。また、日本語音声評価システムを用いて、個々人の発音チェックも行います。

●日本語特別演習 A (基礎) (知識) (作文) (応用) (理解) I・II

中・短期間の留学生のための日本語のクラスです。(基礎) (知識) では中級レベルの文型の学習とその応用練習、(作文) では語いの学習と作文の練習を行います。(応用) では聴解を、(理解) では読解を行い、日本の文化や時事問題に関する理解を深めます。

●日本語特別演習 B (知識) (応用) (理解) I・II

中・短期間の留学生のための日本語のクラスです。(知識) では中上級レベルの文型の学習、(応用) では文型理解を深めるための作文を行います。(理解) ではさまざまなジャンルの長めの文章を読み、正しい理解を得る練習を行います。

●日本語特別演習 C (知識) (理解) I・II

中・短期間の留学生のための日本語のクラスです。(知識) では、上級レベルの文型の学習とその応用、(理解) では短文・長文をある程度のスピードで読みながら、一文一文の内容、段落の構成の理解を正確につかむ練習を行います。

●日本語特別演習 (音声) I・II

中・短期間の留学生のための日本語のクラスです。日本語の音声学の基礎的な知識を学び、単音、アクセント、イントネーションに注意を払いながら実践的に練習を行っていきます。日本語音声評価システムを用いて、実際に発音ができているかの確認も行います。

●日本語特別演習 (表現) (理解) I・II

中・短期間の留学生のための日本語のクラスです。中級から上級レベルの語いと文型を使って、大学生活を送るために必要となる会話の練習を行います。

●日本語演習 (日中翻訳), 日本語演習 (中日翻訳)

より高度の文章力を必要とする、中国からの留学生のためのクラスです。中国語、日本語で書かれた人文、社会系の文章を翻訳するトレーニングを通じて、専門分野のレポートや論文の執筆ができるような表現力を身に付けることを目指します。大学院に進学を希望するみなさんには特に受講を勧めます。

●ビジネス日本語 A

就職活動やインターンシップへの参加に臨むために必要な待遇表現に関する知識を得ることを目的とする科目です。Eメールでのやり取りや、口頭での円滑なコミュニケーションに関する演習を行います。

●ビジネス日本語 B

就職活動やインターンシップへの参加、就業に自信を持って臨めるようにすることを目的とする科目です。「ビジネス日本語 A」よりも難易度が高い科目です。自己 PR をする、アポイントメントを取る、Eメールでのやり取りをするなど、様々な場面を想定し、定型表現を始め、依頼や意見の陳述、提案等の練習を行います。また、事例などから、問題を発見し、解決方法を考え、議論する力を養います。

外国語科目の履修要領・教育課程表

(2014年度入学者から適用)

		経 済 学 部	
		経 済 学 科	現 代 ビ ジ ネ ス 学 科
必修科目としての 外国語		①英語8単位が必修である。 ただし、日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。	第一外国語（8単位） ①英語8単位が必修である。 ②卒業要件単位（8単位）を超える単位は卒業要件中の「自由選択科目」に算入する。
		②卒業要件単位（8単位）を超える単位は卒業要件中の「自由選択科目」に算入する。	第二外国語（4単位） ①第一外国語以外の外国語（同一語）4単位が必修である。なお、インテンシブプログラム（英語）の科目「英語演習」4単位を修得した場合、第二外国語（4単位）とすることができる。 ②「外国人留学生」及び、「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」は、第二外国語として、日本語を選択することができる。
選択科目としての 外国語 (必修以外に外国語 を履修した場合)		必修科目の外国語以外に、外国語を修得した場合、その単位は卒業要件中の「自由選択科目」に算入する。	
英語の履修 方 法	必修科目としての英語	必修科目の英語は、プレースメントテストに基づいたクラス編成を行う。 原則として、前学期と後学期（Ⅰ・Ⅱ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。 なお、プレースメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。	
		1年次では 英語コミュニケーション(Listening)Ⅰ（前） 英語コミュニケーション(Listening)Ⅱ（後） 英語コミュニケーション(Speaking)Ⅰ（前） 英語コミュニケーション(Speaking)Ⅱ（後） } 4科目 計4単位を履修しなければならない。 2年次では 英語コミュニケーション(Reading)Ⅰ（前） 英語コミュニケーション(Reading)Ⅱ（後） 英語コミュニケーション(Writing)Ⅰ（前） 英語コミュニケーション(Writing)Ⅱ（後） } 4科目 計4単位を履修しなければならない。	
		再履修の方法 上記の授業科目を修得できなかった場合、英語 RE-Ⅰまたは英語 RE-Ⅱ（各1単位）を履修しなければならない。ただし、履修できる単位は英語の不足単位分のみであり、履修する年度で同一教員の同じ授業科目を複数履修できない。	
	選択科目と 英語	「外国語科目教育課程表」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。修得した単位は「必修以外の外国語（選択英語）」として扱われる。	
英語以外の外国語の 履修方法 (日本語を除く)		①英語以外の外国語は、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語がある。 ②それぞれ初級AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ、中級AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・CⅠ・CⅡ・DⅠ・DⅡ、上級AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・CⅠ・CⅡに分かれる。 ③本学入学以前に初級程度以上の知識をもっている者は、中級および上級から履修してもよい。ただし、あらかじめ当該外国語の専任教員の許可を受けなければならない。 ④原則として、それぞれの科目は前学期と後学期（Ⅰ・Ⅱ）を通年で履修しなければならない。 ⑤学部・学科・クラス・ペアの指定がある科目は、その指定された授業を履修すること。ただし、当該外国語の専任教員の許可を得た場合、他の授業を履修することができる。 ⑥初級を修得して中級を履修する場合、原則として初級AⅠとAⅡまたは初級BⅠとBⅡの組み合わせで、2単位を修得しなければならない。ただし、スペイン語については、原則として初級AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡの全てを修得していなければ中級を履修することはできない。上記初級4単位のうち3単位を修得している場合は、未修得の初級1単位と中級の同時履修を認める。中国語については、初級AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡのうちいずれか2単位を修得していれば中級の履修を認める。	
日本語の履修方法		①日本語は「外国人留学生」及び、「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修には資格認定が必要であるので、必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 ②経済学科で日本語を必修の外国語とする場合、日本語科目を4～6単位を修得することとし、8単位に不足する単位は「英語」で補うものとする。 ③原則として、それぞれの科目は前学期と後学期（Ⅰ・Ⅱ）を通年で履修しなければならない。	

2019年度 外国語科目 教育課程表 (2014年度入学者から適用)

授業科目の名称		配当期	授業を 行う年次	単位数	対象学部・学科等
外国語科目	英語コミュニケーション (Listening) I	(前)	1	1	法学部, 経済学部, 外国語学部 (英語英文学科を除く), 人間科学部, 工学部 (総合工学プログラムを除く) を対象とした習熟度別クラス英語
	英語コミュニケーション (Listening) II	(後)	1	1	
	英語コミュニケーション (Speaking) I	(前)	1	1	法学部, 経済学部, 人間科学部, 工学部 (総合工学プログラムを除く) を対象とした習熟度別クラス英語
	英語コミュニケーション (Speaking) II	(後)	1	1	
	英語コミュニケーション (Reading) I	(前)	2	1	法学部, 経済学部, 外国語学部 (英語英文学科を除く), 人間科学部, 電気電子情報工学科, 建築学科を 対象とした習熟度別クラス英語
	英語コミュニケーション (Reading) II	(後)	2	1	
	英語コミュニケーション (Writing) I	(前)	2	1	法学部, 経済学部, 人間科学部, 電気電子情報工学科, 建築学科を 対象とした習熟度別クラス英語
	英語コミュニケーション (Writing) II	(後)	2	1	
	英語ライティング基礎 I	(前)	1	1	外国語学部 (英語英文学科を除く) を対象とした習熟 度別クラス英語
	英語ライティング基礎 II	(後)	1	1	
	英語ライティング応用 I	(前)	2	1	
	英語ライティング応用 II	(後)	2	1	
	英語 (O. C. S.) A-I	(前)	1	2	国際文化交流学科を対象とした習熟度別クラス英語 スペイン語学科は選択英語として履修可能
	英語 (O. C. S.) A-II	(前)(後)	1	2	
	英語 (O. C. S.) A-III	(前)(後)	1	2	
	英語 (O. C. S.) A-IV	(前)(後)	1	2	
	英語 (O. C. S.) A-V	(前)(後)	1	2	
	英語 (O. C. S.) A-VI	(後)	1	2	
	英語 (O. C. S.) B-I	(通年)	2	2	
	英語 (O. C. S.) B-II	(通年)	2	2	
	英語 (O. C. S.) B-III	(通年)	2	2	
	英語 (O. C. S.) B-IV	(通年)	2	2	
	英語 (O. C. S.) B-V	(通年)	2	2	
	英語 (O. C. S.) B-VI	(通年)	2	2	
	英語 (O. C. S.) B-VII	(通年)	2	2	
	英語 (総合) 1-I	(前)	1	2	総合工学プログラムを対象とした習熟度別クラス英語
	英語 (総合) 1-II	(後)	1	2	
	英語 (総合) 2-I	(前)	2	2	
	英語 (総合) 2-II	(後)	2	2	
	英語 R E-I	(前)	2・3・4	1	法学部, 経済学部, 外国語学部 (英語英文学科を除く), 人間科学部, 工学部 (総合工学プログラムを除く) を対象としたクラス英語の再履修科目
	英語 R E-II	(後)	2・3・4	1	
	実用英語 I	(前)	2	1	機械工学科を対象としたクラス英語
	実用英語 II	(後)	2	1	
	実用英語 III	(前)	3	1	
	実用英語 IV	(後)	3	1	
	科学技術英語 I	(前)	2	2	物質生命化学科を対象としたクラス英語
	科学技術英語 II	(後)	2	2	
	国際コミュニケーション I	(前)	2	1	情報システム創成学科を対象としたクラス英語
	国際コミュニケーション II	(後)	2	1	
	国際コミュニケーション III	(前)	3	1	
国際コミュニケーション IV	(後)	3	1		
工業英語 I	(前)	2	1	経営工学科を対象としたクラス英語	
工業英語 II	(後)	2	1		
工業英語 III	(前)	3	1		
工業英語 IV	(後)	3	1		
Academic Writing A	(前)	1・2・3・4	1		
Academic Writing B	(後)	1・2・3・4	1		
Academic Reading A	(前)	1・2・3・4	1		
Academic Reading B	(後)	1・2・3・4	1		
英語読解・上級 I	(前)	1・2・3・4	1	選択英語 横浜キャンパスの全学部 (英語英文学科を除く) を対 象とした科目	
英語読解・上級 II	(後)	1・2・3・4	1		
英語作文・初級 I	(前)	1・2・3・4	1		
英語作文・初級 II	(後)	1・2・3・4	1		
英語作文・中級 I	(前)	1・2・3・4	1		
英語作文・中級 II	(後)	1・2・3・4	1		
英語作文・上級 I	(前)	1・2・3・4	1		
英語作文・上級 II	(後)	1・2・3・4	1		
英語会話・入門 I	(前)	1・2・3・4	1		
英語会話・入門 II	(後)	1・2・3・4	1		

授業科目の名称		配当期	授業を行う年次	単位数	対象学部・学科等		
外国語科目	英語会話・初級Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1	横浜キャンパスの全学部(英語英文学科を除く)を対象とした科目		
	英語会話・初級Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	英語会話・中級Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1			
	英語会話・中級Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	英語会話・上級Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1			
	英語会話・上級Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	英語リスニング・初級Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1			
	英語リスニング・初級Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	英語リスニング・中級Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1			
	英語リスニング・中級Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	英語リスニング・上級Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1			
	英語リスニング・上級Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	英語・再入門Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1			
	英語・再入門Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	TOEIC演習・初級Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1			
	TOEIC演習・初級Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	TOEIC演習・中級Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1			
	TOEIC演習・中級Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	TOEIC演習・上級Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1			
	TOEIC演習・上級Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	TOEFL演習・初級Ⅰ	(前)	1・2・3・4	1			
	TOEFL演習・初級Ⅱ	(後)	1・2・3・4	1			
	初級	韓国語初級AⅠ	(前)	1		1	横浜キャンパスの全学部を対象とした科目 ただし、「スペイン語初級」はスペイン語学科を除く 「中国語初級」は中国語学科を除く
		韓国語初級AⅡ	(後)	1		1	
		韓国語初級BⅠ	(前)	1		1	
		韓国語初級BⅡ	(後)	1		1	
		スペイン語初級AⅠ	(前)	1		1	
		スペイン語初級AⅡ	(後)	1		1	
		スペイン語初級BⅠ	(前)	1		1	
		スペイン語初級BⅡ	(後)	1		1	
		中国語初級AⅠ	(前)	1		1	
		中国語初級AⅡ	(後)	1		1	
		中国語初級BⅠ	(前)	1		1	
		中国語初級BⅡ	(後)	1		1	
		ドイツ語初級AⅠ	(前)	1		1	
		ドイツ語初級AⅡ	(後)	1		1	
ドイツ語初級BⅠ		(前)	1	1			
ドイツ語初級BⅡ		(後)	1	1			
フランス語初級AⅠ		(前)	1	1			
フランス語初級AⅡ		(後)	1	1			
フランス語初級BⅠ		(前)	1	1			
フランス語初級BⅡ		(後)	1	1			
ロシア語初級AⅠ		(前)	1	1			
ロシア語初級AⅡ		(後)	1	1			
ロシア語初級BⅠ		(前)	1	1			
ロシア語初級BⅡ		(後)	1	1			
* 日本語AⅠ	(前)	1・2	1	外国人留学生[外国高等学校在学経験者(帰国生徒等)を含む](国際文化交流学科を除く)を対象とした科目			
* 日本語AⅡ	(後)	1・2	1				
* 日本語BⅠ	(前)	1・2	1				
* 日本語BⅡ	(後)	1・2	1				
* 日本語CⅠ	(前)	1・2	1				
* 日本語CⅡ	(後)	1・2	1				
* 日本語DⅠ	(前)	1・2	1				
* 日本語DⅡ	(後)	1・2	1				
* 日本語EⅠ	(前)	1・2	1				
* 日本語EⅡ	(後)	1・2	1				
* 日本語FⅠ	(前)	1・2	1				
* 日本語FⅡ	(後)	1・2	1				
* 日本語特別演習(基礎)AⅠ	(前)	1・2	1				
* 日本語特別演習(基礎)AⅡ	(後)	1・2	1				
* 日本語特別演習(作文)AⅠ	(前)	1・2	1				
* 日本語特別演習(作文)AⅡ	(後)	1・2	1				
* 日本語特別演習(応用)AⅠ	(前)	1・2	1				
* 日本語特別演習(応用)AⅡ	(後)	1・2	1				
* 日本語特別演習(応用)BⅠ	(前)	1・2	1				
* 日本語特別演習(応用)BⅡ	(後)	1・2	1				
* 日本語特別演習(知識)AⅠ	(前)	1・2	1				
* 日本語特別演習(知識)AⅡ	(後)	1・2	1				

授業科目の名称		配当期	授業を行う年次	単位数	対象学部・学科等		
外国語科目	* 日本語特別演習 (知識) B I	(前)	1・2	1	外国人留学生[外国高等学校在学経験者(帰国生徒等)を含む](国際文化交流学科を除く)を対象とした科目		
	* 日本語特別演習 (知識) B II	(後)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (知識) C I	(前)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (知識) C II	(後)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (理解) A I	(前)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (理解) A II	(後)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (理解) B I	(前)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (理解) B II	(後)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (理解) C I	(前)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (理解) C II	(後)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (音声) I	(前)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (音声) II	(後)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (表現) I	(前)	1・2	1			
	* 日本語特別演習 (表現) II	(後)	1・2	1			
	* ビジネス日本語A	(前)(後)	2・3・4	1			
	* ビジネス日本語B	(前)(後)	2・3・4	1			
	* 日本語演習 (日中翻訳)	(後)	3・4	1			
	* 日本語演習 (中日翻訳)	(前)	3・4	1			
	中級	韓国語中級A I	(前)	2		1	横浜キャンパスの全学部を対象とした科目 ただし、「スペイン語中級」はスペイン語学科を除く 「中国語中級」は中国語学科を除く
		韓国語中級A II	(後)	2		1	
韓国語中級B I		(前)	2	1			
韓国語中級B II		(後)	2	1			
韓国語中級C I		(前)	2	1			
韓国語中級C II		(後)	2	1			
韓国語中級D I		(前)	2	1			
韓国語中級D II		(後)	2	1			
スペイン語中級A I		(前)	2	1			
スペイン語中級A II		(後)	2	1			
スペイン語中級B I		(前)	2	1			
スペイン語中級B II		(後)	2	1			
スペイン語中級C I		(前)	2	1			
スペイン語中級C II		(後)	2	1			
スペイン語中級D I		(前)	2	1			
スペイン語中級D II		(後)	2	1			
中国語中級A I		(前)	2	1			
中国語中級A II		(後)	2	1			
中国語中級B I		(前)	2	1			
中国語中級B II		(後)	2	1			
中国語中級C I		(前)	2	1			
中国語中級C II		(後)	2	1			
中国語中級D I		(前)	2	1			
中国語中級D II		(後)	2	1			
ドイツ語中級A I		(前)	2	1			
ドイツ語中級A II		(後)	2	1			
ドイツ語中級B I		(前)	2	1			
ドイツ語中級B II		(後)	2	1			
ドイツ語中級C I		(前)	2	1			
ドイツ語中級C II		(後)	2	1			
ドイツ語中級D I		(前)	2	1			
ドイツ語中級D II		(後)	2	1			
フランス語中級A I		(前)	2	1			
フランス語中級A II		(後)	2	1			
フランス語中級B I		(前)	2	1			
フランス語中級B II		(後)	2	1			
フランス語中級C I	(前)	2	1				
フランス語中級C II	(後)	2	1				
フランス語中級D I	(前)	2	1				
フランス語中級D II	(後)	2	1				
ロシア語中級A I	(前)	2	1				
ロシア語中級A II	(後)	2	1				
ロシア語中級B I	(前)	2	1				
ロシア語中級B II	(後)	2	1				
ロシア語中級C I	(前)	2	1				
ロシア語中級C II	(後)	2	1				
ロシア語中級D I	(前)	2	1				
ロシア語中級D II	(後)	2	1				

授業科目の名称		配当期	授業を行う年次	単位数	対象学部・学科等	
外国語科目	上級	韓国語上級A I	(前)	3・4	1	横浜キャンパスの全学部を対象とした科目 ただし、「スペイン語上級」はスペイン語学科を除く
		韓国語上級A II	(後)	3・4	1	
		韓国語上級B I	(前)	3・4	1	
		韓国語上級B II	(後)	3・4	1	
		韓国語上級C I	(前)	3・4	1	
		韓国語上級C II	(後)	3・4	1	
		スペイン語上級A I	(前)	3・4	1	
		スペイン語上級A II	(後)	3・4	1	
		スペイン語上級B I	(前)	3・4	1	
		スペイン語上級B II	(後)	3・4	1	
		スペイン語上級C I	(前)	3・4	1	
		スペイン語上級C II	(後)	3・4	1	
		中国語上級A I	(前)	3・4	1	
		中国語上級A II	(後)	3・4	1	
		中国語上級B I	(前)	3・4	1	
		中国語上級B II	(後)	3・4	1	
		中国語上級C I	(前)	3・4	1	
		中国語上級C II	(後)	3・4	1	
		ドイツ語上級A I	(前)	3・4	1	
		ドイツ語上級A II	(後)	3・4	1	
		ドイツ語上級B I	(前)	3・4	1	
		ドイツ語上級B II	(後)	3・4	1	
		ドイツ語上級C I	(前)	3・4	1	
		ドイツ語上級C II	(後)	3・4	1	
		フランス語上級A I	(前)	3・4	1	
		フランス語上級A II	(後)	3・4	1	
		フランス語上級B I	(前)	3・4	1	
		フランス語上級B II	(後)	3・4	1	
		フランス語上級C I	(前)	3・4	1	
		フランス語上級C II	(後)	3・4	1	
ロシア語上級A I	(前)	3・4	1			
ロシア語上級A II	(後)	3・4	1			
ロシア語上級B I	(前)	3・4	1			
ロシア語上級B II	(後)	3・4	1			
ロシア語上級C I	(前)	3・4	1			
ロシア語上級C II	(後)	3・4	1			

【備考】

- 1 外国語科目の卒業要件単位数を含め、履修全般について「外国語科目の履修要領」を参照のこと。
- 2 *印は外国人留学生〔外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）を含む〕を対象とした科目である。
- 3 英語(O.C.S.)は、英語(Oral Communication Skills)を示す。
- 4 視覚・聴覚障がい等のために必修の英語科目の受講が困難な者には、他の英語科目に代替することができる。